

令和5年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会 (WEB会議) 会議録

議題	(1) 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート(案)について (2) 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について(答申)(案)について (3) その他
日時	令和6年2月20日(火) 14時から15時まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階コミュニティホールA
出席者氏名	会長: 松葉口 玲子 (WEB会議により出席) 副会長: 山田 秀砂 委員: 小室 典子、鈴木ひとみ、裏 龍二、高田 実、鈴木 和美、岩壁 俊彦 (事務局) 文化スポーツ部多様性社会推進課 森永課長、小見課長補佐、久保主事
会議資料	・ 令和5年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会次第 ・ 資料1 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート(案) ・ 資料2 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について(答申)(案) ・ 参考資料1 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業一覧 ・ 参考資料2 茅ヶ崎市ジェンダー平等社会に関するアンケート調査
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者	なし

【議題1】 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート(案)について
協議の結果、承認された。

【議題2】 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について(答申)(案)について
協議の結果、承認された。

【議題3】 その他

資料に基づき、茅ヶ崎市ジェンダー平等社会に関するアンケート調査について、事務局より報告を行い、質疑応答を行った。

会議録

○事務局（森永課長）

令和5年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会を開催させていただきます。本日、委員改選後初めての出席となる岩壁委員より、一言御挨拶をお願いいたします。

（岩壁委員挨拶）

○事務局（森永課長）

それでは松葉口会長、本日の議事進行をよろしくをお願いいたします。

○松葉口会長

本日はオンラインで大変申し訳ございません。それでは令和5年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会を開催いたします。まず事務局から出欠や傍聴、議事録確認など事務連絡をお願いします。

○事務局（森永課長）

会議の開始に際しまして、榊原委員、金子委員、渡辺委員から欠席の御連絡をいただいております。また、松葉口会長はオンラインで御参加をいただいております。映像及び音声の相互間の送受信及び委員の本人確認を事前に行い、出席を確認いたしております。これらの結果、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会規則第5条第2項の規定により、過半数の出席をいただき、開催要件を満たしております。なお、本日は傍聴の申し出はございませんでした。

それでは次に、本日の会議の進め方等につきまして事務局より御説明をさせていただきます。

○事務局（小見課長補佐）

本日の会議時間は1時間程度を目安とさせていただければと思います。限られた時間とはなりますが活発な御議論をお願いできればと思います。

また、松葉口会長はオンラインでの参加となりますので、委員の皆様におかれましては、会場正面のスクリーンの方にも目をお配りいただきますようお願いいたします。

会場にいる委員の皆様につきましては発言をされる際、挙手をしていただいた上で、発言の際お名前を最初に言っていただけてから、マイクのお手元のスイッチをオンにしてください、発言をしていただき、発言が終わりましたらオフにしてくださいというような形で御対応をお願いします。

続きまして、本日の資料の確認もさせていただきます。事前にお送りさせていただきました資料は、次第、資料1「計画の関連事務事業の評価シート（案）」、資料2「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理についての答申書（案）」となります。

また本日、卓上に配付させていただきました資料といたしまして、参考資料1「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業一覧」、参考資料2「ジェンダー平等社会に関するアンケート調査」をお配りさせていただいております。以上

が資料となります。不足等ございませんでしょうか。

また、議事録の署名につきましては名簿の順としておりますので、今回の議事録署名委員は、山田委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

○山田委員

はい。

○事務局（小見課長補佐）

事務局からは以上です。これより松葉口会長より、御進行をよろしくお願いいたします。

○松葉口会長

それでは議題1「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート（案）」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（小見課長補佐）

議題1の茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート（案）について事務局より御説明いたします。こちらの評価シートにつきましては、前回、令和5年8月25日に開催した第1回の協議会において委員の皆様からの御意見を踏まえ、修正した最終案でございます。

初めに、前回の評価シートからの修正箇所について御説明いたします。修正箇所につきましては、資料右側の網掛け部分を新たに追加しております。内容につきましては、前回の協議会において、「関連事業に位置付けられた各課の事業の中で、独自の数値目標のある事業については、数値目標を記載する欄を設けた方がよいのではないか。」という御意見をいただきましたので、新たに評価シートに数値目標を記載する欄を設け、その隣に数値目標に対する直近の実績を記載する欄を新たに設けたものでございます。その他の部分に修正はございません。

次に、次年度以降の評価の大まかなイメージについて御説明いたします。お配りした資料1の評価シート（案）には、関連事務事業に位置付けられた各課が記入する評価シートの内容の記載例として、多様性社会推進課の2つの事業をピックアップしたものを記載させていただいております。今後の流れとして、令和6年度になりましたら、前回の協議会でお示しした、計画に位置付けられている12の目標ごとに設定した関連事務事業について、担当課に評価シートの記入を依頼し、多様性社会推進課が目標ごとに評価シートの取りまとめを行います。その後、来年度の令和6年度、第1回のジェンダー平等推進計画協議会に取りまとめた評価シートをお示しして、委員の皆様から御意見をいただくような形を考えております。

説明は以上となりますが、次年度から使用する評価シートの内容について、最終案の形でよろしいか御協議のほどよろしくお願いいたします。説明は以上となります。

○松葉口会長

議題1の茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の評価シート案について御質問がある方は

挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私から確認になりますけれども、今この資料1で、目標の数値と、直近の実績も空欄になっているところは特に目標がない。表示がなかったところって理解してよろしいんですかね。

○事務局（小見課長補佐）

各課の関連事業に位置付けられた事業の中には、独自で数値目標のある事業もあれば、目標として位置付けがないものもございますので、あるものについては、こういった形で、下段のような形で記載をしていただきます。ないものについては、空欄という形で考えております。記入例としてどちらのパターンも分かるように記載したものでございます。

○松葉口会長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

○小室委員

前回8月の時に、この表を書くにあたっての記載、注目点とか強い点とか、その記載についてのガイドみたいなのを少し載せるという意見があったと思うんですけどもそこらはどうなっているかということがまず一つ。

それと、もう1つ目は、例えば開設日が何日あったから目標値が100%みたいな目標値の立て方はしないようにしてほしいという希望を出したと思うんですけどもこの点について伺って、あったかどうかについてお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

まず記載要領につきましては、本日の協議会で議題となっている評価シートの最終案で確認を取らせていただいた後に、令和5年度の関連事業に位置付けられている事業の担当課に対して照会をさせていただきます。その照会を依頼する際に、本評価シートの項目について担当課が記載するにあたり、記載要領を作成させていただこうと思っております。

もう1点について、各課の持っている目標が、単純に事業を何回開催するということが目標となっていて、それを令和5年度に何回実施できたから目標は達成できましたかどうかというところについては、正直、各課が設定している事業の目標によるところが大きいと思っておりますので、この数値目標の目標と実績を書き添えていただくときに、ただ今、小室委員からいただいたような目標値しかないのであれば、何か他に違った形で評価の部分で書けるものがないとか、あるものについてはどうしても目標数値でやっていますというところは担当課と事務局の方で、協議をしていくという形に実際にはなるかなと考えておりますので、なるべくジェンダー平等推進計画の評価に繋がってくるような書きぶりで、目標のところも取り組みのところ、目標値が少し、馴染まないのであれば、令和5年度の取り組みのところですか、今後の方向性っていうところで、何か補足していただくような形で書いていただくとかをこれから作成する記載要領の方で、補足できたらなと考えております。

○小室委員

ありがとうございました。できればこの記載要領も本日見たかったなと思いました。要するにこの目標というところには数を求めていることであって文言は求めているという理解になるんですか。

○事務局（小見課長補佐）

基本的に目標数値としてパーセンテージや人数等の数値が入ってくることを想定してこの欄を設けております。それ以外の実際にこのような取り組みを実施し、効果が得られましたという点については、その左側の欄に課題及び今後の方向性について文章で記載していただくような形で、各課にはお願いしようと思っております。

○小室委員

そうであるならば、課題及び今後の方向性の方の欄を少し広くしていただいて、数値だけのところのマス目を少し狭くして、今後の方向性や課題の方をより大きくし、結果を見てみたいなと思いました。以上です。

○事務局（小見課長補佐）

只今評価シートのご案内をお示ししているものは均等割というか、幅が大体同じような感じになっておりますが、各課の文章量に応じて調整いただけるように、事前にある程度枠を広げた形で設定し直したいと思います。

○松葉口会長

そのあたりは御対応くださるようお願いいたします。あといかがでしょうか。特にありませんでしょうかね。それでは、この議題1の評価シート案については、この事務局の説明の通りということで、若干少し工夫していただくということで、お願いするというようにしたいと思います。

では続いて議題2の茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について、また事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局（小見課長補佐）

それでは議題の2、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における答申について御説明いたします。

こちらは令和5年8月25日付で市長より諮問のありました、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理についての答申書の案でございます。先ほどの議題1でも御確認いただきましたが、今年度は計画の初年度であったため、本協議会では、計画の進捗管理の方法について審議を行いましたので、その審議の結果について、答申書としてまとめたものとなります。

内容といたしましては、答申書の前段部分に、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画策定の経緯や、ジェンダーギャップ指数2023の結果を記載しております。

中段部分では、男女共同参画社会の実現に向けた多様な分野での啓発事業等の実施に

ついて、一定の評価はしているものの、依然として特定の分野では男女共同参画が進まない分野も存在しているため、本市のさらなる取り組みを求めるとも求めるとともに、本計画に新たに取り入れたジェンダー平等社会の実現に向けた積極的な取り組みに期待する旨を記載しております。

後段では、今年度審議いただきました計画の進捗管理の方法について、関連事務事業について評価シートを活用して、令和6年度以降評価を行っていく旨を記載しております。

最後に、毎年実施しているアンケート調査の結果について、結果の分析、活用方法に対する要望事項を記載しております。

簡単ではございますが説明は以上となります。

今年度の諮問事項に関する答申書の内容についてご協議のほどよろしくお願いいたします。

○松葉口会長

それではこちら議題2の茅ヶ崎市全体平等推進計画の進捗管理について、御意見、あるいは御質問ある方は挙手をお願いします。これは当たり障りがないというか、何と云ってるかという感じですけどね。

どうでしょうかね。一応これはこれで事実関係というか、そういう感じですので、特にありませんでしょうかね。よろしいでしょうか。

それでは、答申書のこの内容についてはまた、この事務局の説明していただいたとおりということで、よろしいということにさせていただきたいと思えます。

それでは議題3のその他について事務局の方からお願いいたします。

○事務局（小見課長補佐）

それでは、その他といたしまして令和5年度、ジェンダー平等社会に関するアンケート調査について、御説明させていただきます。

本日、参考資料でお配りしました今年度実施したアンケートの方を御覧いただきながら説明をしたいと思います。

前回の協議会で御意見いただきましたアンケート調査については、本年度も実施をさせていただきます。

実施したアンケートにつきましては、本日、卓上にお配りさせていただきます。

本年度は、令和5年12月1日から12月31日を回答期限として、市内在住の1,300人の男女を対象にアンケートを実施いたしましたところ、女性が306名、男性が217名の合計523名から回答をいただきました。

回収率といたしましては、昨年度44.3%となっておりますが、本年度は40.2%となっております。概ね昨年度と同様の回収率となりました。

また、昨年度と比較いたしましてインターネットでの回答率が、25.3%から41.5%に上昇いたしました。アンケートを送付する際の通知文にですね、二次元コードを目立つように載せさせていただいて、できるだけ、インターネットでの回答を呼びかけるような形に工夫をさせていただきましたため、インターネットの回答率が上昇したと

考えております。

また前回の協議会の際に、アンケートの結果についてはクロス集計を取り入れてたらいかがかというふうに御意見をいただいておりますので、一例ではございますが、例えば職業別に、パートタイムで働いている女性と、正規の従業員として働いている女性が、問6にございます家庭生活における男女の平等についての考え方にどのような違いがあるか、クロス集計で分析して比較をしたり、問9の(1)で、パートナーから暴力を受けたことがあると回答をした方が、問10の暴力を受けた時の相談窓口を知っているか否か等の様々な要素を組み合わせてたりし、アンケート結果を有効活用していくような形で、集計作業を進めていければと考えております。

今回は、委員の皆様からも前回クロス集計について御意見いただいておりますので、今、一例で事務局から申し上げましたけどもそれ以外に何か別にクロス集計をしたら、より有意義ではないかというようなことがもし、お知恵やアイデア等ございましたら、この場で、お伺いできたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。説明は以上となります。

○松葉口会長

それではこれにつきましていかがでしょうか。

○高田委員

前回、クロス集計をとということで、お話させていただきました。今手元にあるので、すぐにはどれとどれをクロスしたらいいかということとはよくわかりませんが、それはさておき、でも積極的にそれを取り入れてくれたということは非常にありがたいと思います。前回これを言ったかどうかというのは記憶にないんですけども、そのクロス集計とともに、この1番最後、問12ですよね。要するに、生の声と言ったらいいんでしょうか。

そういったことも、かなり示唆に富んでいるものが、あると思うんです。ただ、そのマルとかどっちに当てはまるだけじゃなくて、かなり問題意識を持ってる方が、こういう欄を活用するんじゃないかなあなんて思って、大変集計しづらいものだと思いますが、何かこれも取りまとめて、示していただければ、かなりの参考の要素になるんじゃないかなと思っております。

○事務局（小見課長補佐）

今、御意見いただきました自由記載欄のところについては、結構な数にはなるかと思っておりますけれども、しっかり、自由記載欄についても、取りまとめを行い、分析といたしますか、そちらに活用できるようにしたいと思います。今考えてるのは、例えばジャンルごとにまとめて分類する等し、集計の際に工夫を加えた形で、自由記載欄の問12のところについても、まとめた後にソートをかけるとか、そのような形で何か工夫をし、御意見を活用できるように、集計作業を進めたいなと思っております。

○小室委員

回答いただいた方々の年齢にばらつきがあったかどうか確認したいんですけど。

○事務局（小見課長補佐）

ただ今集計の途中で速報値というような形になりますが、10代から70代まで、満遍なく回答がありますが、一番多いのは、70代以上の方です。

70代以上の方が149名という形で最多となっておりますが、その次に多かったのが40代の方、その次が60代で大体90名程度それぞれいらっしゃいます。次に、50代の方が86名。30代の方が59名、20代の方が37名となっております。

○小室委員

年代別にこの、これもクロスにかけるっていうか、非正規とパートの分け方でのクロスもそうなんですけれども、年代的にそのギャップがあるかどうかというのも確認するべきではないかと思います。

○事務局（小見課長補佐）

前回の会議でも、年代別に、課題に対する認識や現状に関する捉え方、年代によって様々あるのではないかというような御意見もいただいておりますので、年代別の回答も分析してみたいなと思います。特に子育て世代方や高齢者の方で考え方の違い等があるか集計できたらと考えております。

○松葉口会長

よろしいですか。他はいかがでしょうか。

○高田委員

今見てきて、気付いたのですが、3ページ目の問9なんですけども、パートナーから暴力を受けた経験がありますかという、これおそらく物理的な暴力を指しているのかなあ。それだけで大丈夫なのでしょうか。精神的な暴言とか、経済的なものも様々な暴力もあるかなと考えると、少し範囲が狭いかなと思ったので、申し訳ないなんか少し気が付いただけの話なんですけども、暴力の状況とかも聞くといいのではないかと思います。

○事務局（小見課長補佐）

確かにこの暴力を受けた経験でまとめてしまってるんですけども暴力の種類については、様々ありますので、今回の令和5年度の調査の中ではこのような形での設問として、アンケート調査を実施してしまっておりますので、この後の次回以降に向けて暴力についての聞き方の部分は、毎年度、工夫をしながら変えていったりしていこうと思っております。

○事務局（森永課長）

今の件で少し補足をさせていただきます。私どもで考える暴力というのは身体的だけではなく、高田委員からおっしゃっていただいている経済的な暴力や言葉の暴力もすべ

て暴力であると捉えてはいるものの、今回のアンケートの質問の書き方ですと、身体的な暴力に限ってというように受けとめられてしまったかもしれないと思います。そのあたりについては、ただ今小見課長補佐よりお伝えさせていただきましたとおり、暴力という言葉の範囲が見えるような形で、今後、ここに限らず、他の部分も含み、私たちが考えてる部分と受け手が考える部分の違いがないよう、わかりやすくなるようにしていきたいと思います。御指摘いただいて私たちが気づくところもあると思います。もしそのようなところありましたら、また御指摘いただければと思います。ありがとうございます。

○松葉口会長

他にはよろしいですか。

○鈴木（和美）委員

私、今年の年末に子育てに関するアンケートが届いたんですけれども、やっぱり、それはすごく限定されていて、やっぱり子育て世帯に特化した質問だったなというふうに思いました。やっぱり今回、70代以上の方がここまで占めてると、ちょっとどうなのかなと思ってしまいました。やはり、回答として欲しいのは、30代40代、子育て世代のお父さんやお母さんの声が1番ではないかと思いました。もう少し対象を絞ってアンケートを出せないのかなというのが、数値的な結果を見て思いました。学校等と連携してみてはどうか、このようなアンケートであれば協力してくれるんじゃないかと思いました。あとアンケートの内容というのは、今後、委員の方で少し意見を出せるものなのか、それとも数年ずっと、この内容で続けていくのか教えてください。すみません趣旨とずれた質問となりましたがお願いいたします。

○事務局（小見課長補佐）

はい。まず、アンケート等については、今日御意見いただいたものも含めて集計結果を、次年度の第1回の協議会のところで、各課がまとめる先ほど御議論いただいた評価シートの取りまとめたものと、アンケート結果も一緒に出せばなというように考えております。

実際に来年度はまだ3月議会の前にはなりませんけれども、本年度と同様にアンケートを実施するのであれば、また次年度に向けて検討をしてみたいです。例えば、本日いただいている御意見や来年度6月頃に予定しております第1回の協議会での分析結果等でいただいた御意見の中で、委員の皆様からいただいた御意見を参考にさせていただきながら、その12月頃の実施に向けて、アンケートの設問や先ほどの暴力のところの書き方等についても検討させていただいた上で、最終的なアンケートの文案というものを作成していけたらと考えております。

○事務局（森永課長）

ただ今、御意見いただきながらということ、そのまま継続させていただきたいと思っております。ただ、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画、本アンケートで集計を取ると定めている部分があります。そのため、その部分を変えることはできず、経年的な経過

を見るという点で、アンケート調査を実施させていただくということについては、本協議会の中でも、お話をさせていただいたところではございます。その点については申し訳ないのですが、御理解いただいた上で様々な御意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○事務局（小見課長補佐）

もう1点1，300人の無作為抽出というやり方で、回答をいただいている、回答率のところでの回答数の内訳のところでは御意見いただいたんですけども、森永課長が言われたように、経年で、割合とか結果を比較している部分もありますので、例えば、抽出の方法を、変えることで、その前年度の例えば比較の部分に関する影響等を踏まえながら、その抽出方法については検討させていただきたいと思っております。また、先ほどのアンケートの調査の回収率のところ、ネットでの回答率上げるために工夫をさせていただいたところがありますので、実際子育ての部分ではありませんが、もう少しこの年代の回答が欲しいなというところに対して、アンケートのやり方や同じ母数でやるにしても、なるべくそういうところからの回答率を上げられるような、工夫等を事務局の方でも、引き続き検討していきたいと思っておりますので、次年度のアンケートの調査に向けて、進めていければと思います。

○鈴木（和美）委員

無作為でも、年代に何人という割合は、決まっているのでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

前回の協議会でも御意見をいただいて確認したのですが、そこについても基本的に無作為で抽出しており、実際にその1，300配布した方々から、どの年代の方が実際に回答していただけるかということも、無作為の中でどれくらい上がってくるか。ただ前年と比較しても大体同じぐらいの回答数にはなっています。

○松葉口会長

他いかがですか。もしなければ、私結構あるんですけど、いいですか。まず、1，300人ということだったんですけど、今の説明で無作為抽出だったのだというのがわかったのですが、全くの無作為でやられたのか。ある程度何かの層別にやられたのか、それがよくわからないのとその大前提として、この項目は、今までアンケート何回かやってらっしゃると思うんですけど、ずっと項目自体は変えてこなかった。つまり、経年変化を見るということが目的になってるのでしょうか。そこの大前提のところ、まず項目が、今までと全く変わっていないのかということ。

それからその抽出の仕方ですよね。無作為っていうのはわかりましたけど1，300人というのが、余りにも茅ヶ崎市民の人口からしたら少ないので、サンプリングの仕方でもかなり偏ってきてしまうと思うんですよね。なので、そのあたりのところから今の御質問なんかも結構出てるんじゃないかと思われましたので、まず大前提としてのその2点をお伺いしたいです。

○事務局（小見課長補佐）

1, 300人の抽出については、完全に無作為という形で実施をしております。あと、アンケートの設問については、先ほどジェンダー平等推進計画にも位置付けられている指標として、このアンケートの中で、数値をはかっていくものについては、変えずにそのまま調査しているのですが、それ以外の部分の質問、例えば相談窓口についての設問や用語、このような用語を知っていますかという設問については毎年、ある程度見直しをする形で、その時々話題になっているものとし、若干カスタマイズしながら、聞き方を変えて、設問を設定しておりますので、今回は少し入りまじってるような形で、アンケートを実施しています。

○松葉口会長

このアンケートの内容についてのこの協議会で検討しましたか。

○事務局（小見課長補佐）

はい。アンケートの調査項目1個1個の設問をどうするかという点については、協議会における協議ではなく、あくまでも担当課として、多様性社会推進課が内容については検討し、実施しているものになります。

○松葉口会長

わかりました。というのはですね。すごくざっくりばらんな個々の項目で、問題がよく見えてこないのではないかという懸念があると感じました。

それからアンケートの基本的なことなのですが、知っていますかという質問方法は、社会調査法のまずいケースとしてよく挙げられているケースで、なぜかといえば知っているっていうのは、皆さんそれぞれ聞いたことある程度で丸を付ける人もいれば、結構知ってても謙虚な人は、そこまで深く知らないからということで丸を付けなかったりするとかと言われてますから、結構バイアスがかかってきてしまうので、知っていますかっていう聞き方ではなくて、例えば聞いていますかとか、ある程度説明できますかのような形で聞くのが、割と原則というんですかね。そのような感じがあったのと、それはあったとしても、例えば先ほどの暴力の概念というのも本当に委員の皆さんがおっしゃられているとおりで、例えばですけど、この暴力を受けたことあるか否かという質問に付随して、具体的にどのような暴力を受けましたかのような質問項目があれば、そこで皆さんがおっしゃってるような懸念というのは、かなり払拭されるのではないかと思います。非常に大ざっぱな、これで何を問題として、茅ヶ崎市の男女共同参画にとって何が一番問題であるかというのが見えてくるのだろうかというのがよくわからないんですね。

例えばジェンダー平等について優遇されているかどうかというのも、優遇とはどんな状態で、私ですら、優遇されてるかどうかって聞かれたら、ちょっと何か、どう答えたらいいんだろうと思ってしまわないかなと思いました。具体的に何かこういう数、こういうことをやっているみたいな、やっぱり事実関係を聞いていかないと、言葉のイメージで、かなりその答え方が変わってきてしまうんじゃないかという懸念があるんですね。今までと項目が同じだということであれば、少なくとも経年変化で、こういう調査

結果が、状況良くなってるのか悪くなってるのかの判断基準になりますからいいんですけど。だから比較できるのがどれで、どれとどれが比較できるのかということも知りたいというのはありますが、変えたところなんかについてはじゃあそのなぜ変えたかっていうところもちょっとお聞きしたいぐらいっていうかそれを変えることによって、何を得ようとして変えたのかということも知りたいですし、そうだとってもこれもやっちゃったものだと思いますので、今から言ってもしょうがないのでまあ、あの次回やる時には、是非その辺りもきちっと反映してアンケートやった方がいいと思うんですけども。少なくともこれやっちゃった後のクロスを使用してとかが非常に課題になってくると思いますけど、クロス集計はどういうクロス集計をして欲しいとかっていう要望は、次の第1回の時に、要望が出せると思っていいんでしょうか。それともまた、特に市の方で判断されて、人数別とか男女別とか、就労形態別とかで出すという感じなんですか。そのあたりも、要は私自身がちょっと、やっぱり茅ヶ崎市の中での男女共同参画、或いはジェンダー平等の何が一番課題なのかっていうのが、どう炙り出されてきてるんだろうかっていうのがよくわからないってところがあるので。非常にアンケートは重要だと思うのでお尋ねしたいなと思ったんです。いろいろと疑問が生じてしまったんですよね。すいませんなんか、あまり脈絡のない質問とか意見で答えにくいかもしれないですけど、何かお答えいただけることあればお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

先ほどの知っていますかという聞き方の部分については、計画の指標の中で、用語の認知度が指標に位置付けられてるっていうところで、目的としては認知度について、市民の皆様の認知度を測りたいというのがメインの目的となっています。今いただいたアドバイスを受けて、知っていますかという、その聞き方の部分は、もう少し工夫ができるのかなと思いますので、いただいた御意見を参考にさせていただきながら次回以降、聞き方の部分については、検討したいなと思っております。

また、クロス集計ですが、12月末で今郵送だったりウェブでの回答を取りまとめてこれから年度末に向けて、集計作業の方進めさせていただければというふうに思ってますので、今日この場でいただいているところでこういうクロス集計があったらいいなというものがもし、今日この場でいただけるのであれば伺いたいなと考えております。

それは来年度の第1回ということではなく、そこでは集計結果も含めてお出ししたいなというふうに思ってますので、もし可能であれば、今日のこの会議の中でいただければというふうに思っております。

○松葉口会長

それでは、こういうクロス集計をして欲しいという要望は今日出した方がいいということですね。

○事務局（小見課長補佐）

はい。もし、この場でこんなものがというのが、いただけると。事務局としてもありがたいなと思います。

○松葉口会長

まず基本的には、年代別、それから男女別それから就労形態別です。これは必ず出した方がいいと思いますけれども、それ以外はいかがですか。あと子どもがいるか否か。

○鈴木（和美）委員

今おっしゃられたように子どもがいる。先程の最初の質問で、未婚の子どもがいるとなったら結構未婚って曖昧で、30代でも未婚の方がいるんですけど、ほんと子育てという20歳、未成年の方、その世代の声があったらいいですね。

○松葉口会長

子育て世帯ってそうなんですよね。だから、男女平等のいろいろ施策の中で、やっぱり子育て世代のそのフォローをどうするか、また介護とか、その辺りというのは、重要なものとして基本的なものだと思いますから、それを反映できるようなクロスはぜひやった方がいいですし、あとこれ、男女って先ほど人数おっしゃってくださいましたけれども、例えば夫婦で答えてるなんていうのはありますか。実は夫婦で答えてもらった方が、家庭内のアンバランスはよく見えるんですよね。昔私だからもう夫婦ワンセットで調査をするということやってたんですけど、だからその夫婦単位で見ていかないと、実はその中の、家庭内での男女バランスというのがなかなか見えてこないみたいなことがあったりするんですよね。しかし、なかなかちょっと夫婦でっていうのは難しいかもしれません。少なくとも既婚、未婚で子どもがいるかいないかとか、それから、介護を今やってるかどうかとか、他いかがですか。

○高田委員

高田です。今クロス集計の項目についてなんですけども、おっしゃったように、男女とか年代とか、もう自由だと思うんですが、私自身から見ると、よく男は仕事、女は家庭というような固定観念がまだまだあると思うんですよ。言葉ではないと言っているも、結構あるんじゃないか。これ見ると、日本の高度経済期に生まれた何か言葉じゃないかな。意外と歴史は古くないんじゃないか。この男は仕事、女は家庭という。

○松葉口会長

そうですよ。そうですおっしゃるとおりなんですよね。専業主婦が根づいたのは日本の、歴史の中では高度経済成長期ですから。

○高田委員

そうですね。

○松葉口会長

それまでの農村社会では、家族総出で働いていたわけで。そこで配偶者控除制度はその時代背景にマッチして家庭科の女子の実習とか、要は高度経済成長期の時には、男女の分離を結構政策としてやってきたんですよね。でも、今はにっちもさっちも行かなくなって配偶者控除もやめようみたいな感じの動きになってきてますけども。

○高田委員

そういうのが背景にあるかと思うので私自身の考えは、問7のような男は仕事女は家庭という固定的な性別役割分担意識を持っている方と持っていない方とていうのは結構僕としては、分かれ道のような感じがするんです。ですからそこら辺も一つのクロスの一方として、そうだよと思ってる人はどういう傾向があるの。反対だという人はどういう傾向を持っているのかというようなところを、ぜひそこら辺を、解き明かしたいなどは思っております。以上です。

○松葉口会長

多分それに類することが、この問8だと思うんですね。少し表現が変わってますけれども、これそうなんですねこれ。しかも、ここですでにジェンダーバイアスがかかっている女性のことだけを聞いているっていう、ジェンダーバイアスがかかっているんですね、女性だけについて聞いているっていう。でも今おっしゃってくださったものが表現変えて、今ここに入ってきてるといえると思いますので、ある意味おっしゃってくださったお話はこの問8をクロス集計することで、少なくとも年代別で、あと男女別でどうかということが見えると思います。あと、気をつけなきゃいけないのは結構世論調査なんかで、今おっしゃってくださったような意識が、もうどんどん減ってる。男は、外で女は家みたいなそれに賛成か反対かというところのほとんどの方が反対っていう世論になってるんですけど、でも実態が伴ってないっていうその本音と建前、どっちがいいっていうところが実は一番課題っていうのがあるんだと思うんですけどね。

何か御意見あればお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

先ほどの固定的な性別役割分担意識については、今年度スタートしたジェンダー平等推進計画の基本的な方針のところでも反対だというその意識はみんなわかっているけれども、実際の行動まで至ってないっていうところで、この新たなジェンダー平等推進計画の中でも、引き続いて、前計画から引き続いてやってかないといけないところだよっていうような、ものが、基本的なものとして載せさせていただいておりますので、今高田委員と松葉口会長の方からいただいたクロスのところについては、そういった分析できるような形で、集計をしたいなというふうに思っております。

○松葉口会長

あとはいかがでしょうか。

○鈴木（和美）委員

今問7について、私としては何かどれにも丸をつけられない、どちらも協力してやればいいのにといい考えで、あんまりどちらにも丸をつけたらいいかわからないと思いました。

○事務局（小見課長補佐）

こちらについては、選択肢の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○小室委員

事務局から今までのアンケートの仕方を踏襲していると御説明いただいたんですけども、私がずっと長いことこの協議会に関わって行って何回もアンケートの結果の冊子を見てるんですけども、前はもっとすごい細かく複雑にいろいろ、表示がされてたような記憶があるんですけども、やっぱりだんだんシンプル化になってきているということだったのででしょうか。

○事務局（森永課長）

今ご覧いただいているのは毎年やっているもので、2年ほど前までは葉書で実施していたものを、封書にして項目を増やしています。おそらく以前御覧になったものは、5年に一度大きな調査をしております、本来ですとジェンダー平等推進計画が令和2年から作られる予定だったので、元年度に、5年ぶりの大きな調査をしています。そちらの方は御覧いただいたとおり、かなり項目がもう少し細かく書かれており、規模も大きかったと思います。そのため、今御覧いただいているものとは違うものになります。

○松葉口会長

そうですね。ちょっと私のイメージとしても随分シンプルになったなあって思いました。また、シンプルだけじゃなくて、すごくアバウトになったなあっていう感じがして、これで問題がちゃんと見えてくるんだろうかっていう。前は前ので細かすぎてなんか、それはそれでまた単純に何かクロスとか全くないので、問題が見えないっていうのがあって、こんなにたくさんやってるのに、もったいなくあの費用がもったいなくないんじゃないかと思ったんですけど。とりあえずやっちゃったものをどう有効活用をするかっていうことが重要だと思いますので、問4まではいわゆる属性を聞いていると思いますから、問4のこの属性で、全部、問5以降をクロスかけるっていうのはもう最低条件としてやるという感じで、そこからまたもしかしたら何か見えてくるかもしれないという感じでしょうか。これがまた、今日の議題の前半の部分にあった、その事業評価に繋がってくると思うんですよね。だから本来は事業評価の、各事業の12でしたっけ、何か母体があったはずですから、そこがやるべきこと等をあぶり出せるような質問項目に本来ならば、するべきだと思うんですけども、ちょっと今回はなかなかそうはなっていないという感じがありますが、次回、少し御検討いただければと思いますけど。

他にいかがでしょうか。

○鈴木（ひとみ）委員

民生委員の鈴木です。このアンケートの内容の中にですね、外国籍の方とか、国籍が日本人になってる方とか、そういう方たちも全部対象となったアンケートになってるんでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

この1,300人のところ住民基本台帳にお名前の登録のある方から無作為で1,3

00人を抽出してるっていう形となっています。

○鈴木（ひとみ）委員

一応、今茅ヶ崎市内に外国籍の方とか、やはり国籍はもう日本になってる方とか、かなりたくさんいらっしゃると思うんですね。そういう方たちの御意見というのも、とても大事じゃないかなと思ったのでちょっと言ってみたんですけど。もう今回はこのアンケートは終わってしまったものなので、どうすることもできないと思うんですけども、次回もしそういうことを頭に念頭に入れていただければ嬉しいかなと思ったので、一言言わせていただきました。

○事務局（森永課長）

御意見ありがとうございます。先ほど住民基本台帳にということでお話させていただいたんですが、住民基本台帳には外国籍の方も登録をされております。しかし、1,300人の中にどの程度含まれているか、またどの程度回答をいただけたかどうかというところまでは、本アンケートの質問項目に国籍を尋ねる質問がないため、わかりかねてしまうところがあります。しかしながら、外国籍の方を対象から外したとかそういったことはないものになっております。

○鈴木（ひとみ）委員

はい、わかりました。

○松葉口会長

他はよろしいですか。ではよろしいでしょうかね。クロスについては、先ほど言いました属性では、全部一応クロスかけていただきたいということと、また次回アンケート実施する時には、アンケート項目の選定というんですかね。どんな項目にするかっていうことも、今御要望もありましたし、それを反映するような形でお願いできればと思っております。

それでは、議題3その他につきましても、このあたりでよろしいでしょうかね。

では事務局の方からまた何かございますでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

本日の協議会をもちまして今年度、令和5年度に予定しておりました協議会は今回で終了となります。次回の協議会の日程についてですが、本協議会につきましては、令和6年度、来年度につきましても、今年度と同じく2回の協議会の開催を予定しております。令和6年度の第1回の協議会につきましては、先ほど御説明しました各課が入力した評価シートと、この後、集計をするアンケートの集計結果、完了した後に開催をさせていただければと考えております。なるべく多くの委員の皆様、御参加できるように、日程調整等させていただきながら、正式な開催日を決定させていただければと思いますので、また後日、改めて日程調整の御連絡を事務局よりさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

事務局からは以上になりますはい。

○松葉口会長

ありがとうございます。またこれで私の方からの質問で申し訳ないんですけど、今度、第1回目の時に評価シートとアンケートの集計結果取りまとめたものを見て、何を私たちは今度するのでしょうか。

来年度、次の2回で何をやるか大体青写真を教えていただけたらありがたいです。こちら側からの要望っていうか各事業に対しての評価、これでいいのかっていうことでやるんですか。

○事務局（小見課長補佐）

松葉口会長がお話しされたとおり、各課の回答を取りまとめものを、目標ごとに一覧化したもの、アンケートの集計結果、それを、まず委員の皆様にも早めに、整い次第、お渡ししたいと思いますので、ある程度内容を御確認いただくお時間をとりながら、第1回目の協議会の開催を予定しています。来年度も2回しかありませんので、実際その第1回目の会議の中で、各課の事業の実績だとか、アンケートの集計結果の部分を踏まえて、計画の進捗を図っていくための評価について、委員の皆様から、御意見をいただきたいと思えます。

また、第2回に向けては第1回でいただいた御意見を含めて、評価結果の答申書という形で第2回の協議会に向けて、まとめていくというような流れが、次年度以降の大まかなスケジュールとなります。そのため、基本的に第1回にお出ししたもの、確認いただき御意見を、第2回にまとめてそれを皆様にお諮りさせていただくというような流れで進めたいと思っています。

○松葉口会長

はい。ありがとうございます。その第2回では、取りまとめたものをまた各事業に反映お返しするっていう感じなんですか。

○事務局（小見課長補佐）

第2回の中で確認していただく答申書には、第1回の会議でいただいた御意見をまとめたものとなります。その後、このような答申が出ましたというところは、次年度以降に、共有はさせていただきますが、それを関連事務事業ひとつひとつ、この事業については、こうしてくださいとかというところまでは想定はしておりません。

答申書がまとまりましたということについては、公開されるものでもありますので、そのような形で取りまとめをしていきたいと考えております。

○松葉口会長

そうすると答申書が多分またあまり当たり障りのない表現になると思うんですけど、それはそれでいいとしてもやっぱり実質的には、何かこう改善を図っていく必要があると思えますので、そのあたりは、例えば私なんかやっぱり在住でも在勤でもないのになかなかこう、細かなところまで、タッチできない心苦しきがあるのですが、皆さんの方

で何か意見交換会みたいな感じのことをやっていただくなんていうのもいいのかもしれないなんて思ったりはしていますけれどもね。

○鈴木（和美）委員

事前にいただくじゃないですか。事前資料をいただいて、そこで例えば疑問に思ったことや各課に質問したいことがあれば、先にメールなどをお送りするなどして、その会議の時に、回答いただくという形にはできますか。会議の場で発言するとそのまま持ち帰りますという感じになって得たい質問の答えをもらえないと思うんです。

○事務局（小見課長補佐）

今の鈴木委員の御質問は、特定の課のこの事業について、こういうことを詳しく聞きたいっていうのを事前に集め、それを第1回で回答をもらいたいというイメージでしょうか。

○鈴木（和美）委員。

評価シートに評価まで書かれるんですよね。私はその評価について、もう少しこの部分を知りたいっていうものを、会議の場で言ったら一旦持ち帰って聞いて第2回で回答みたいになると思うのですが、事前に聞いておけば、その1回目の会議までの間に、評価についての分からないことや疑問に思ったことに回答をいただけるのかなと思いついて。

○事務局（小見課長補佐）

各課の事業を、具体でこれがどういう事業でどういうやり方で実施していて細々したところまでっていうところが全部この評価シートに入ってくることはなくて、第1回のやり方のイメージとしては、事前に資料をお渡しして、期間をある程度設けさせていただいて、その中で、この事業を、この目標の、この事業がこういう記載をしてるんだけどここってどんなのかなみたいなのがあれば、その確認いただく期間の中で、お問い合わせいただければ、事務局の方で担当課に聞いて、それを委員の皆さんに御返しさせていただきますって言うようなやりとりは可能かなというように思っています。

ただ実際は協議会が2回しかないのので、関連事業に位置付けたものを1個ずつ個別に評価していくというやり方は、2回の協議会の中では、現実的に厳しいのかなと思っておりますので、目標ごとに評価シートを取りまとめるような形にはなっていくのかなと思っております。その目標ごとに全体を見ていただいて、御意見いただくとか、その中で、その御意見を出すにあたって、この事業のこの評価はこうなってるんだけど、ちょっと疑問だになっていうところは、確認いただく期間の間に、事務局の方にお問い合わせいただくような形で、対応させていただきたいと思っておりますので、実際具体的に疑問があったところで事務局と調整させていただくような形でお願いします。

○小室委員

以前の時には、委員からの回答というような、委員が意見を書くような欄があって、評価したことがあったんですけど、今回はそういう作業をしないということですか。

○事務局（小見課長補佐）

意見として、この特定の課かの実施しているひとつの事業について、こうしてくださいみたいなのを1つずつ、協議会として評価していくイメージではありません。

○小室委員

一個ずつやらなくてもどこかで意見を記入する作業はあるのでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

意見を紙ベースで皆様からいただくのか、こういった会議の中で、御意見としていただくのって言うところは、次年度の評価方法のところになってくるので、今後調整いたします。

○松葉口会長

今の話に関しては、やっぱり皆さんそれぞれ思いがおありだと思うので、事務局の方で、もしよろしければ、備考欄か何か一言書ける欄を一つ設けておいていただいて、御覧になっていただいてお返しするときまでに、気になるところがあれば意見から何か書いてもらって、それをまた、まとめたものを皆さんで見ると言うのではどうですかね。

○事務局（小見課長補佐）

例えば、1事業ごとじゃなくてその目標ごととか、そのような何かしらそのかける意見として出せる欄を設ければいいのではないかとということでもよろしいですかね。

○松葉口会長

はい。委員の皆さん、全部書くの大変ですし、だから自分の興味関心のあるところで、何か意見言いたい人は書けるような状態にしておくといいのではないのでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

わかりました。そのような形で、意見をしっかり出せる形で。そのやり方を少し考えます。

○松葉口会長

事務局の方でも、あんまり手間がかからないように一つあるだけでもいいと思うんです。とにかく書ける欄があれば、書きたいことは書くっていう感じで、いいんじゃないかと思うんです。はい、よろしいですかそんな感じでいかがでしょうか。お願いできますか。それでよろしくお願ひします。

それでは、このところで、今日はこれで終了ということでもよろしいでしょうか。本日の会議はこれで終了します。